徳山工業高等専門学校	開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	国語総合Ⅱ

科目基礎情報

科目番号	0016	科目区分	一般 / 必修
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 2
開設学科	土木建築工学科	対象学年	2
開設期	通年	週時間数	2
教科書/教材	「現代文Ａ」（大修館書店）／「学習課題ノートＡ」（大修館書店），「国語図説」（京都書房），「ジャンプアップ高校漢字問題集」（東京書籍）		
担当教員	一色 誠子		

到達目標

文章を正しく読むと同時に考えながら読み、自らの考えを表現することができるようにする。また、辞書を積極的に引き、語彙力をつける。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目１	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解し、文章の構成や展開を意識した作品読解をすることができる。	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解し、作品読解をすることができる。	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解し、作品読解をすることができない。
評価項目２	作品に対しての感想や意見を持つことができ、それらを自らの言葉で表現し、他者に的確に伝えることができる。	作品に対しての感想や意見を持つことができ、それらを自らの言葉で表現することができる。	作品に対しての感想や意見を、自らの言葉で表現することができない。
評価項目３	文のリズムを意識し、言葉の意味を理解しながら音読をすることができる。	適切に音読をすることができる。	適切に音読することができない。

学科の到達目標項目との関係

到達目標 Ａ２

教育方法等

概要	一年次の基礎的な学習をふまえて、柔軟なものの見方・考え方ができるように、多くの文章や作品を読むことによって発展させていくことを目標とする。
授業の進め方・方法	現代文を中心に授業をすすめていく。授業では、学習の指針となり学習履歴となる「学習シート」を毎時間使用する。漢字・ことばの学習は、テキストを用いて自宅での自主学習を基本とするが、月一回の確認テストを実施する。適宜「課題ノート」の提出を求める。
注意点	国語辞典（電子辞書も可）を携帯しておくこと。

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	ガイダンス：授業内容と授業の進め方について	シラバスをもとに、授業内容や到達目標が理解できる。
		2週	随想（１）　①	石田衣良「『迷う』力のすばらしさ」を読み、筆者の問題意識のありかを読み取ることができる。 本文中に使用されている語句の意味を正しく理解できる。
		3週	随想（１）　②	本文の読みを通して、事例の示し方と、筆者の思考の展開を分析することができる。
		4週	随想（１）　③	ここまでの読みを踏まえた上で、「『迷う』ことはすばらしいことなのか？」について、自らの考えを明確にしてグループで討議することができる。
		5週	随想（２）　①	橋本治「敬語への自覚、他者への自覚」を通読し、筆者の主張の軸を読み取ることができる。 本文中に使用されている語句の意味を正しく理解できる。
		6週	随想（２）　②	敬語（現代の敬語も含む）の正しい遣い方について理解することができる。本文の読みを通して、「若者言葉」の内実を読み取ることができる。
		7週	随想（２）　③	本文の読みを通して、日本語が劣化した理由を読み取り、それに対しての自身の考えを持つことができる。
		8週	中間試験	
	2ndQ	9週	中間試験の返却と解説 評論　①	中間試験の解説により、授業内容をさらに深めることができる。 長谷川櫂「和の思想、間の文化」を通読し、評論文の読み方を身につけることができる。
		10週	評論　②	本文中に使用されている語句の意味を正しく理解できる。 本文の読みを通して、各段落のキーワードを見つけることができる。
		11週	評論　③	第一段落のキーワードをもとに、筆者の主張を説明することができる。引用されている古典作品の内容と作品に関する文学史を理解することができる。
		12週	評論　④	第二段落のキーワードをもとに、筆者の主張を説明することができる。何を述べるために、どのような事例が挙げられているのかを正確に読み取ることができる。
		13週	評論　⑤	第三段落のキーワードをもとに、筆者の主張がどのようにまとめられているかを読み取ることができる。
		14週	評論　⑥	本文を再読し、筆者が「和」と「間」の関係をどのように捉えているのかを読み取り、これに対しての自身の考えをまとめることができる。

		15週	期末試験	
		16週	期末試験の返却と解説 小説　①	期末試験の解説により、授業内容を深めることができる。夏目漱石「こころ」の導入として、作者と作品についての知識を深め、文学史的な位置を理解することができる。
後期	3rdQ	1週	小説　②	本文を通読し、本文中に使用されている語句の意味を正しく理解できる。小説の鑑賞の方法を理解することができる。
		2週	小説　③	小説の鑑賞の方法を理解することができる。場面の展開と作品構成を理解することができる。登場人物を整理し、それぞれの心情の動きを読み取ることができる。
		3週	小説　④	小説の鑑賞の方法を理解することができる。 登場人物を整理し、それぞれの心情の動きを読み取ることができる。
		4週	小説　⑤	小説の鑑賞の方法を理解することができる。 登場人物とそれぞれの心情の描写に注目し、表現上の工夫を捉えることができる。
		5週	小説　⑥	小説の鑑賞の方法を理解することができる。 登場人物とそれぞれの心情の描写に注目し、物語の展開とのかかわりについて考えることができる。
		6週	小説　⑦	小説の鑑賞の方法を理解することができる。 登場人物とそれぞれの心情の描写に注目し、物語の展開とのかかわりについて考えることができる。
		7週	小説　⑧	小説の鑑賞の方法を理解することができる。 これまでの読みを通して、作品に込められた作者の意図がどこにあるのかを考え、自身の考えを説明することができる。
		8週	中間試験	
	4thQ	9週	随想（３）　①	中間試験の解説により、授業の内容を深めることができる。 林望「夢を建てる人々」を通読し、本文中に使用されている語句の意味を正しく理解できる。
		10週	随想（３）　②	随想の構成と展開を把握することができる。随想の表現の工夫を捉えることができる。
		11週	随想（３）　③	随想の構成と展開を把握することができる。随想の表現の工夫を捉えることができる。
		12週	詩　①	室生犀星「小景異情」の導入として、作者と作品についての文学史的な理解を深めることができる。 詩の音読を通して、詩のリズムを体感することができる。
		13週	詩　②	室生犀星「小景異情」の読みを深め、作品の背景にある作者の心情を推測し、その内容を短文（鑑賞文）としてまとめることができる。 茨木のり子「六月」　導入として、作者と作品についての文学史的な理解を深めることができる。
		14週	詩　③	茨木のり子「六月」　の音読を通して、詩のリズムを体感することができる。詩の中に描かれている作者の心境風景を、短文で表現することができる。
		15週	期末試験	
		16週	期末試験の返却と解説 一年間の学習のまとめ	期末試験の解説を通して、授業内容をより深めることができる。併せて、学習の総まとめをする。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章を読み、論理の構成や展開の把握にもとづいて論旨を客観的に理解し、要約し、意見を表すことができる。また、論理的な文章の代表的構成法を理解できる。	3	
				代表的な文学作品を読み、人物・情景・心情の描写ならびに描写意図などを理解して味わうとともに、その効果について説明できる。	3	
				文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深め、広げることができる。	3	
				文学作品について、鑑賞の方法を理解できる。また、代表的な文学作品について、日本文学史における位置を理解し、作品の意義について意見を述べることができる。	3	
				鑑賞にもとづく批評的な文章の執筆や文学的な文章（詩歌、小説など）の創作をとおして、感受性を培うことができる。	3	
				読書習慣の形成をとおして感受性を培い、新たな言葉やものの見方を習得して自らの表現の向上に生かすことができる。	3	
				現代日本語の運用、語句の意味、常用漢字、熟語の構成、ことわざ、慣用句、同音同訓異義語、単位呼称、対義語と類義語等の基礎的知識についての理解を深め、その特徴を把握できる。また、それらの知識を適切に活用して表現できる。	3	
				情報の収集や発想・選択・構成の方法を理解し、論理構成や口頭によるものを含む表現方法を工夫して、科学技術等に関する自らの意見や考えを効果的に伝えることができる。また、信頼性を重視して情報を分析し、図表等を適切に活用・加工してコミュニケーションに生かすことができる。	3	

				他者の口頭によるものを含む表現について、客観的に評価するとともに建設的に助言し、多角的な理解力、柔軟な発想･思考力の涵養に努めるとともに、自己の表現の向上に資することができる。	3	
				相手の意見を理解して要約し、他者の視点を尊重しつつ、建設的かつ論理的に自らの考えを構築し、合意形成にむけて口頭によるコミュニケーションをとることができる。また、自らのコミュニケーションスキルを改善する方法を習得できる。	3	
				社会で使用される言葉を始め広く日本語を習得し、その意味や用法を理解できる。また、それらを適切に用い、社会的コミュニケーションとして実践できる。	3	

評価割合

	試験	漢字確認テスト	グループワーク	課題	合計
総合評価割合	80	10	5	5	100
総合的能力	80	10	5	5	100